

2080年生息域半減の生物も

温暖化で調査

温室効果ガスの抜本的な削減策を取らずにこのまま地球温暖化が進むと、2080年までに世界の動物の34%、植物の57%の種が生息に適した地域を半分以上失うとする予測を英イーストアングリア大などの研究チームがまとめ、12日付の英科学誌に発表した。地球上に幅広く分布する動植物約5万種を調べた。

今までは、今世紀末の世界の平均気温が産業革命前に比べて4度上昇すると予測され、この場合、多くの動植物が生息域を失うという結果になった。

一方、16年をピークに世界の温室効果ガス排出量を減少に転じさせることができれば、生息域を半分以上失う種を約6割減らせる結果となり、チームは厳しい対策の導入を求めている。

2080年の動物(左)と植物の減少予測。色の濃い部分が減少の著しい地域(ネイチャー・ライメートチェンジ誌提供)

Animals

Plants



Richness
>100%
0%